

しまね国際センター機関誌

まいるすとんず

MILESTONES

2023 March

80

特集

しまねでにほんご -地域日本語教育の今とこれから-

SICTピックス

外国にルーツをもつ子どもの学習支援教室

アンテナサロン

SIC外国人留学生奨学金給付事業

SIC見聞録

こどもサポートプロジェクト

SICレポート

令和4年度国際化功労者顕彰



しまねと世界をもっと近くに。



オンラインで日本語を教える講師の様子(SICにほんごコース〈ネットでにほんご〉)



Shimane
International Center

www.sic-info.org



特集

しまねでにほんご

- 地域日本語教育の今とこれから -

外国人住民の増加に伴い、「地域での日本語教育」が話題になることが増えてきました。「生活者としての外国人」に対する日本語教育にも改めて関心が高まっており、生活者のための日本語教材も次々に出版・公開されています。

2019年には、「日本語教育の推進に関する法律」が施行され、国や地方公共団体は日本語教育を推進する責務があり、外国人材を雇用する事業主は、雇用する外国人とその家族に対する日本語学習機会の提供等に努めなければならないとされました。

こうした動きと呼応するように、島根県としまね国際センター(SIC)では、島根県のどこに住んでいても日本語を学ぶことができる「SICにほんごコース」を始めました。そして、県内のボランティアによる日本語教室は、長年にわたって、外国人住民の日本語学習を支えてきました。

日本語教室には、「居場所」「交流」「地域参加」「国際理解」「日本語学習」*の5つの機能があるとされています。「SICにほんごコース」や日本語教室は、どんな役割を果たしているのでしょうか。

今回は、「SICにほんごコース」と2つの日本語教室をご紹介します。

これらの取組みを通じて、これからの「しまねでにほんご」を一緒に考えてみませんか？

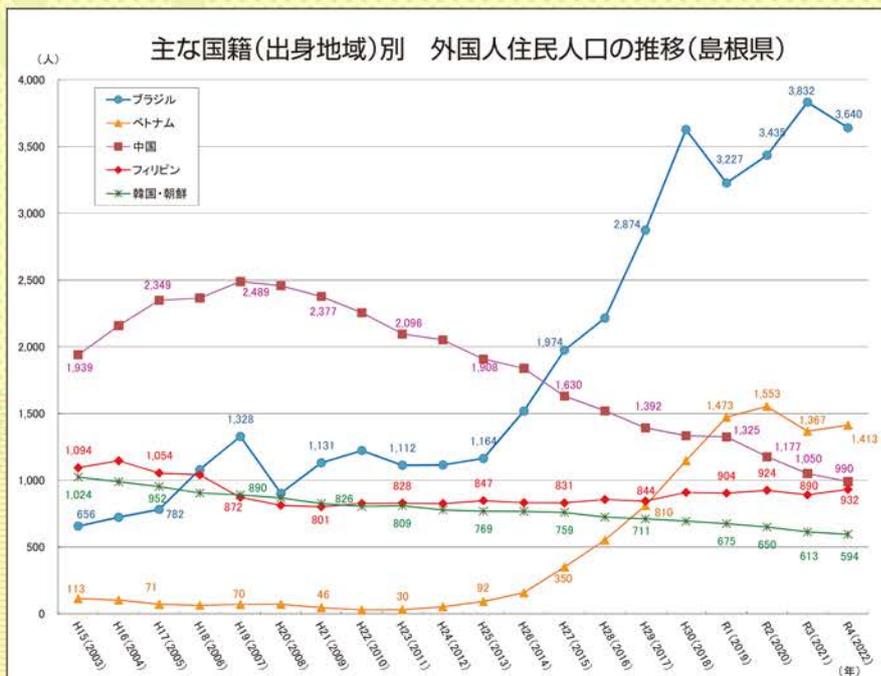
*出典：CINGA地域日本語実践協会「多文化共生の地域日本語教室をめざして」

島根県の外国人住民の状況

2022年12月末現在、島根県には、9,117人の外国人住民が暮らしており、県民人口の約1.39%を占めています。外国人住民数は、2019年以降コロナ禍の影響等により横ばいの状況となっています。

出身地別に見ると、最も多いのはブラジルの3,640人で、外国人住民全体の約40%を占めています。次いでベトナム1,413人、中国990人、フィリピン932人の順となっています。このうち、前年と比べると、ブラジルと中国が減少し、ベトナムとフィリピンが増加しています。そのほかインドネシアとネパールの増加が著しく、それぞれ284人、179人となっています。アジア地域の出身者が約56%を占める一方で、全体では74の国・地域の外国人住民が暮らしています。

市町村別に見ると、最も多いのは出雲市4,670人、次いで松江市1,650人、浜田市608人となっています。外国人住民比率が最も高いのは、吉賀町の約2.92%、次いで出雲市の約2.72%、江津市の約1.57%です。(島根県文化国際課調べ)



注1)各年とも12月末の数値 注2)平成23年(2011年)以前の数値は外国人登録者数

SICにほんごコース

島根県としまね国際センターは、2019年度から文化庁「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」を活用し、「SICにほんごコース」を実施しています。このコースには、次の3つのプログラムがあります。

1. となりでにほんご

「日本語教室が遠い」「仕事をしていて、日本語教室と時間が合わない」などの理由

で、地域の日本語教室に通うことができない外国人住民のためのプログラムです。学習者と日本語パートナー(ボランティア)を1対1でマッチングし、最寄りの公共施設やオンラインで学習することができます。

このプログラムでは、「対話」がキーワードのオリジナル教材『となりでにほんご』を使用しています。10回の学習を通じて、学習者と日本語パートナーがお互いについて知り、同じ島根県に住む住民同士としてのつながりを作ることを目指しています。

オリジナル教材『となりでにほんご』のダウンロードはこちらから

<https://www.sic-info.org/support/learn-japanese/kyozai-introduction/>



Emilee

Emily さん (オーストラリア)

学習は、わかりやすい構成で、日常の会話を理解できるようになりました。江理子さんはとてもフレンドリーで、彼女との学習をとても楽しめました。

参加者の感想

Katsumi

勝部 江理子 さん (安来市)

以前から、国際交流に興味があったので、この活動に参加しました。10回の学習を通して、Emileeさんと親しくなれたと思います。初めてで不安もありましたが、楽しく活動できました。

2. ネットでにほんご

今年度から始めた新しいプログラムで、オンラインのクラス形式で日本語を学ぶことができます。ひらがな・カタカナの文字を学習するクラスから、仕事を休む許可を取ったり病院で自分の症状を伝えたりするのに必要な日本語を学習するクラスまで、4つのレベルのクラスがあります。様々な日本語能力の外国人住民が参加できます。

島根県での生活に役立つ日本語を身につけることができるように、さらに内容を充実させていきます。



参加者の感想

- 買い物などの普通の生活での聞き取りができるようになったし、自分でも話せるようになりました。
- 以前は、「映画が好きです」のように短い文で言っていたことを、文章で長く説明できるようになって、うれしいです。
- オンラインは、移動時間も省けるし、親の勉強している姿が子どもにも見せられて、よかったです。

3. 職場でにほんご

県内事業所で働く外国人材のための有償プログラムです。「社内のコミュニケーションを円滑にしたい」「安全な作業のために、専門用語を覚えてほしい」など、事業所の希望に合わせて、学習内容を決めます。

今年度は、吉賀町からの申込みにより、同町内の株式会社MACの技能実習生を対象に実施しました。

吉賀町役場 担当者の思い 税務住民課 河野 千明 さん

「郷に入っては郷に従え」ということわざがありますが、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく」ことを目指す多文化共生の理念と反する、少し古い考え方だと感じます。

吉賀町に暮らす、日本語を母語としない人たちの多くは就労しています。彼らは「外国人労働者」ではなく、わが町の住民です。困ったときに同僚や近所の人に相談することができる、地域の一員として安心安全に、時には楽しみを持って生活するために、日本語でコミュニケーションを取りたいと願う人がいるならば、そのニーズに応えていくことは、行政の使命だと考えています。

日本語教室を開催すると、学習者と日本語パートナーの距離がぐっと近づきます。もともと、住民同士の距離が近い田舎町です。教室が終わっても、スーパーなどで出会った際におしゃべりしたり、家庭菜園の野菜を分けてもらったりといった交流がどんどん広がっていくことを期待しています。



講師はオンラインで指導し、吉賀町の日本語パートナーが学習者をサポートしました

地域で活動する日本語教室の紹介

島根県内には、2022年の時点で、ボランティアによって運営されている日本語教室が約20あります。今回は、2つの教室にお話を伺いました。



日本語教室の情報は、
しまね国際センターHPに掲載しています



<https://www.sic-info.org/support/learn-japanese/japanese-class/>

1. うんなん日本語サロン ことのは

「うんなん日本語サロン ことのは」(以下、「ことのは」)は、2021年8月にできたばかりの新しい教室です。「雲南市の外国人住民に、雲南暮らしに役立つ情報と日本語を提供したい」と、市内の日本語教師を中心に立ち上げました。現在は、ベトナム・フィリピン・ネパールなどの学習者が参加しています。

「ことのは」の特徴は、月ごとにテーマが決まっています。教室での日本語学習と町へ出かける体験がセットになっていることです。テーマは、「病院」「観光」など「これを知っていたら、雲南で暮らしやすい」というものです。

また、学習会場である交流センターとも連携し、近くの日本人住民の方にも声を掛け、いつでも活動に来てもらえるような体制を取っています。日本語学習のサポートに慣れていなくても活動できるように、オリジナル教材を使用し、外国人住民にとっても、日本人住民にとってもわかりやすい構成・内容に工夫しています。

例)「警察(交通・相談)」がテーマの月

第1日曜日 交流センターで、警察や交通に関する言葉・情報・ルールを知る

- ・市内の警察署の場所や対応してもらえる時間などを知る
- ・日本の交通ルールを知る
- ・落とし物をして、警察に届けるときの日本語を練習する

第3日曜日 雲南警察署へ出かける

- ・警察官による警察署ツアー
- ・交通ルール教室
- ・落とし物届出の実践練習



減多に体験できない警察署ツアー



落とし物をしたことを日本語で伝える練習



日本の交通ルール、わかるかな?

メンバーの声 しば ゆきこ 芝 由紀子 さん

外国人住民を支える雲南市の行政の仕組みは整ってきましたが、地域でのつながりが弱いと感じていたこともあって、交流の場を作りたいと考えました。1回だけのイベントではなく、続いていく関係を築きたいという思いがあり、「ことのは」を立ち上げました。「ことのは」は、外国人住民にとっては、雲南市での生活に必要な日本語を学び、情報を得る場所であり、日本人住民にとっては、「やさしい日本語」を使って、外国人住民と対話する場所です。

外国人住民にとって、知らない場所ですらいろいろなところに出かけることは、意外とハードルが高いです。「ことのは」では、そのハードルを下げるために、まずは、日本人住民と一緒に出かけるといった体験ができるようにしています。これがきっかけになり、「次は、一人でも行けそう」という気持ちになってもらえます。特に、警察や病院などは、行きにくい場所なのですが、直接職員と対話し、つながることで、「どんなところかわかって安心した」「何かあっても一人でいけそう」という感想をもらっています。出かけた先では、日本語で質問したり、申し込んだりする練習も行います。毎回、外国人住民は、とても積極的に参加していて、楽しそうです。

また、普段は外国人住民と接する機会があまりない日本人住民や受け入れてくださる関係者の方にとっても、新鮮な時間になっていると思います。日本人でもターンで雲南市に来られた方からは、「私も初めて知ることがあった」という声も聞かれます。これからも、参加者みんなにとって新しい体験を、「ことのは」で提供していきたいと思っています。



パンフレットやスマホも使いながらの学習

2. 益田日本語ボランティアグループ ともがき

益田市唯一の日本語教室である「益田日本語ボランティアグループ ともがき」(以下、「ともがき」)は、1997年に設立され、25年以上に渡って、益田市に住む外国人住民に日本語学習の機会を提供してきました。現在は、ベトナム・中国・インドネシアなどの学習者が参加しています。「ともがき」では、レベル別に4つのクラスを設け、ボランティアが順番に授業を担当しています。入門レベルのクラスでは、島根県オリジナル教材『いっしょににほんごしまねけん』を使っていて、レベルが上がると、市販教材を使って、趣味などの自分のことについて話したり、病院や交通などの日常生活の場面での日本語を学んだりしています。

また、教科書を使った学習だけでなく、お正月には福笑いをするなどクラスに関係なく学習者とボランティアが楽しく交流できるような時間も設けています。コロナ禍の前は、ピクニックなど外に出かけることもありました。

「ともがき」のボランティアは、教室の設立当初から活動している方だけでなく、ここ数年で新しいボランティアも増え、それぞれの得意分野を活かして、SNSでの情報発信やイベント開催などの試みにもチャレンジしています。

教室情報

会場：益田市人権センター（益田市須子町3-1）

曜日と時間：日曜日 9:30～11:30



4つのクラスに分かれて、日本語を学習します



みんなで楽しく福笑い♪

「ともがき」の SNS



Tomogaki 益田日本語ボランティアグループともがき

Facebook

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100083083821318>



Instagram

https://www.instagram.com/tomogaki_masuda/



多文化共生イベント

開催日時：2022年11月13日(日)10:00～12:00

内容：石見神楽の演目「大蛇」の鑑賞
石見神楽にまつわるクイズ
ゲームによる交流

ボランティアは、「大蛇」のストーリーを「やさしい日本語」で説明するにはどうしたらいいか、事前に研修をし、台本を作り、学習者は当日、神楽鑑賞の前に、それを読むことにしました。担当する中国・ベトナム・タイの学習者は、しっかり練習をしたこともあって、参加した日本の子どもにもわかりやすく説明できました。クイズやゲームで、学習者と日本人住民の距離もぐっと近くなり、楽しいイベントになりました。



指示された順番通りにできるだけ早く並ぶゲーム盛りました



緊張しながらも、しっかり説明できました



最初は恥ずかしかったけど、だんだん楽しくなりました♪

ボランティアの声

おたに まさこ
大谷 雅子 さん

SNSでの情報発信や、11月に開催した多文化共生イベントなどをきっかけに、地域の方に「ともがき」や外国人住民の存在を知っていただくことができ、学校や公民館などから、「多文化共生について話をしに来てほしい」という依頼も受けるようになりました。日本語がわからない外国人住民が日本語を勉強して、力を発揮できるようサポートをするとともに、多文化共生の理解が深まるように、今後も情報発信やイベント開催などを継続していきたいと考えています。

いしかわ すずえ
石川 鈴枝 さん

たくさんの学習者と出会い、いろいろな国の文化を知ることができて、それが楽しくて、「ともがき」での活動を続けています。学習者に「先生たちだから、私たちの悩みが話せます」と言って、公私にわたる相談を受けることがあります。「ともがき」は、日本語を学ぶだけでなく、学習者にとって、リラックスできる場所になっていて、私たちボランティアと学習者の信頼関係が築けていると感じています。

「私も参加したい!」「もっと知りたい!」と思ったら

しまね国際センターは、外国人住民の日本語学習のサポートや外国人住民とのコミュニケーションに関心がある方向けに、下記のような研修を行っています。

◎日本語パートナー入門講座

対象者 SICにほんごコース《となりでにほんご》での活動に関心がある方

- 内容**
- 演習：県オリジナル教材を使った教え方、「やさしい日本語」
 - ワークショップ：国際理解・異文化コミュニケーション



日本語パートナー入門講座
参加者同士で、場面をイメージした練習

◎日本語ボランティア出前講座

対象者 日本語教室で活動するボランティア

- 内容**
- 講義・演習：県オリジナル教材を使った教え方
 - それぞれの教室からの「これを知りたい」に合わせた内容



「やさしい日本語」講座
実際に外国人住民と「やさしい日本語」での
コミュニケーションを体験!

◎出前研修「やさしい日本語」

対象者 外国人住民とのコミュニケーションについて学びたい方

- 内容**
- 講義：「やさしい日本語」とは？
 - 演習：具体的な場面に応じたやりとり (例) 窓口対応、地域での交流

県オリジナル教材「となりでにほんご」の使い方は、
YouTube「SICチャンネル」でも紹介しています。



YouTube「SICチャンネル」

<https://www.youtube.com/@user-sic>



県内の国際交流・国際協力等の取組みを紹介する「SIC見聞録」。今回は、
こどもサポートプロジェクト(令和4年度「世界とつながる島根づくり助成金」
交付事業)をご紹介します。

こどもサポートプロジェクト

ほりにし まさあき
堀西 雅亮



スタッフといっしょに、ゲームを
したり勉強をしたりします



オンライン参加のスタッフとじゃんけんゲーム



みんなで思い切り身体を動かして遊びます

「ここが好き」「次はいつ?」「友だちを連れてきてもいい?」

ここは、こどもサポートプロジェクトが実施する「言語的・文化的に多様な子どもたちの居場所」です。出雲市内でも特に「多文化な」地域である、塩冶地区、直江地区の2か所で、月にそれぞれ1~2回開いています。

目指しているのは、生まれた国や育った場所、話す言葉にかかわらず、「誰でも安心して過ごせる場」。主に小学生が参加するこの居場所では、宿題をしたり、鬼ごっこをしたり、自分の好きな絵を描いたりして、思い思いに過ごします。日本語を主に話す子もいれば、複数の言語や文化の中で育つ子もいます。

スタッフは大学生を中心に、高校生、地元のボランティアさん、この居場所を卒業した中学生など、こちらも多様です。ときにはオンラインで、京都の大学の先生や学生さんが参加してください。

「イレギュラーな存在」はどこにもいません。誰でも「受け入れられている安心」の中で成長できること、ありのままの自分でいられること、将来を自由に描けること…それが当たり前の社会になってほしいと思います。「日本語ができない子」「〇〇語が話せない子」「課題がある子」なんかではなく、自分の言葉で豊かな表現ができたり、なわとびが大好きだったり、K-POPに夢中だったりする「一人の子ども」として大切にされる、そういう社会に近づけていきたいと思います。

課題があるのはそうっていない社会の側—ここはそのことを、子どもの姿から大人が教わる場でもあるのです。

SIC トピックス



教室風景



子どもとボランティアが1対1で勉強

外国にルーツをもつ子どもの学習支援教室

島根県ではここ数年、日本語指導が必要な児童生徒数が200人前後で推移しています(島根県教育委員会調べ)。そのような児童生徒は、日本語が十分できないために勉強があまり理解できなかつたり、進路の選択が狭くなってしまつたりすることがあります。日本語が十分できないことを理由として学びの機会や将来の選択が限定されないよう、学習支援教室を開催することとしました。

今年度は、日本語指導が必要な児童生徒が最も多い出雲市に会場を設け32回開催しました。対象は、外国にルーツをもつ中学生及び学齢超過で来日した子どもです。子どもたちは学校のワークや日本語学習の教材を持ってきて、わからないことをボランティアや大学生に教えてもらいます。来日直後で日本語がほとんどわからない子ども、教科書やワークに出てくる日本語とともに教科の内容も勉強する子ども、来日前に基本的な知識は勉強していて日本語の説明を聞いたら問題ができる子どもなど状況は様々です。学習を通して、わかる日本語が増えたり、教科の知識が深まったり、少しずつ子どもたちの力になっているようでした。

子どもたちのやる気につながることを目指して、来年度以降も継続していきます。

日本語指導が必要な児童生徒とは、「日本語で日常会話十分にできない児童生徒」及び「日常会話ができても、学年相当の学習言語が不足し、学習活動への参加に支障が生じており、日本語指導が必要な児童生徒」を指します。

 一般財団法人 自治体国際化協会 (CLAIR/クリア) この事業は、一般財団法人自治体国際化協会多文化共生のまちづくり促進事業の助成により実施しました。



アンテナサロン

身近な絵本等を通して外国の文化に触れ、国際交流・多文化共生への関心を育むこと、また地域の外国人住民と日本人住民との交流を図り、相互理解を深めることを目的としてアンテナサロンを開催しました。



1. 「外国の絵本&ダンスであそぼう！」

in 川本
開催日：2022年6月19日(日)
会場：悠邑ふるさと会館
参加人数：26人

川本町の子育てサポートサークルや日本語教室の皆さんにもご協力いただき、カンボジア出身の技能実習生の皆さんや中国出身の留学生に絵本の読み聞かせをしてもらったり、カンボジアのダンスと一緒に踊ったりして楽しく交流しました。当日は中高生ボランティアの皆さんにもお手伝いいただき、多世代・多国籍のとても賑やかで温かいイベントになりました。



カンボジアのダンス

2. 「世界の絵本でおはなし会」

外国出身のママさんたちに多言語で絵本を読んでいただくおはなし会を開催しました。浜田ではロシアと中国出身のママさんたちに、益田ではカナダとタイ出身のママさんたちに絵本の読み聞かせとミニ文化紹介クイズをしていただきました。

慣れ親しんだ絵本でも聞き慣れない言葉の響きに不思議そうな顔をしながらじっと耳をすませて聞いている子どもたちの姿が見られました。絵本を読んでくださったママさんからは「母国語で絵本の読み聞かせや文化紹介ができて嬉しい」という声もいただきました。短い時間でしたが、読み聞かせを通して多文化に触れる豊かな時間となりました。



外国出身
ママ、活躍中！

in 浜田
開催日：2022年11月20日(日)
会場：浜田市立中央図書館
参加人数：13人

in 益田
開催日：2023年2月5日(日)
会場：益田市立図書館
参加人数：26人



ロシア語での読み聞かせ



タイ語での読み聞かせ



SIC



お知らせ

外国人留学生奨学金寄附の方法にクレジットカード決済を導入いたします。ぜひ当センターのホームページからご利用ください。



SIC外国人留学生奨学金給付事業

今年度は12人の私費留学生に奨学金を給付しました。奨学金給付決定通知書授与式は、対面での開催を予定していましたが、開催直前に新型コロナウイルスの感染が急拡大したことにより、急遽オンラインに切り替え、学校・キャンパスごとに分散して行いました。

11月から開始した寄附金募集では、1年半ばまでに約130万円の寄附が寄せられました。コロナ禍が続く困窮する私費留学生の皆さんに、多くの方々からご支援をいただいたことに、改めてお礼申し上げます。

留学生からのお礼のメッセージを、一部抜粋してご紹介します。



オンライン授与式(島根大学松江キャンパス)

- ◆この奨学金が県民の寄付から成るものだと知り、驚き、嬉しいです。島根県の人々が留学生のことを気にかけて、学生の経済的負担を減らそうと手を差し伸べてくださることに感動しました。この奨学金は、経済的な支援とともに、私に帰属意識や、留学生として自分の努力が評価されているという認識を与えてくれ、一生懸命勉強を続けるための大きな原動力になりました。(バングラデシュ: 島根大学・医学系研究科)
 - ◆新型コロナの影響で生活に困っていましたが、お金の心配が減り勉強に集中できました。今は国家試験合格を目指しており、合格すれば4月から出雲市で自動車整備士になります。島根に来て4年、ここで長く働き生活したいので、日本のことをもっと知りたいし、日本人と仲良くなるためにもっと日本語の勉強も頑張ります。(ベトナム: 坪内総合ビジネスカレッジ・国際自動車整備士学科)
- ※留学生からのお礼のメッセージは、HPでご紹介する予定です。



SIC Report

エスアイシーレポート

令和4年度国際化功労者顕彰

国際交流や国際協力、多文化共生など、島根県の国際化に尽力され、その功績が特に顕著な個人・団体を顕彰することを目的に、平成10(1998)年度から国際化功労者顕彰を行っています。

今年度は、次の1団体、1個人に表彰状が授与されました。

☆日本語ではなそう!ふらっと(代表 ^{みずの ゆみこ} 水野 由美子)〈出雲市〉

平成17(2005)年の設立以来、長年にわたり、日本語教室を開催し、個々の学習者のニーズに合わせたきめ細かいマンツーマンや少人数制の日

本語指導を行ってきた。また、市内の実習生向けの日本語研修を行うなど、外国人住民への日本語指導を通して多文化共生の地域づくりに貢献した。

☆三代 律男 〈松江市〉

平成13(2001)年の「ロシアを理解する市民講座実行委員会」(ロシア理解講座)の設立以来、当会におけるロシアウラ

ジオストクでの市民交流、松江市内でのロシア文化講座、ロシアの子供企画展、ウラジオ写真展等の行事の主催を通して、地域における国際交流・国際理解の推進に貢献した。



国際化功労者表彰式 (左から)しまね国際センター野津理事長、受賞者の三代様、「日本語ではなそう!ふらっと」推薦団体の出雲市より山根文化国際室長(「ふらっと」様ご欠席)、しまね国際センター安部山事務局長

お知らせ

賛助会員、ボランティア登録者のみなさまへ

ご住所などで登録情報が変更になった場合には、当センターへご連絡ください

公式SNSアカウントで、多文化共生、国際交流、SICに関する情報を発信しています。ページや投稿のフォロー、いいね、シェアをよろしくお願いします!

Facebook(フェイスブック)

アカウント名:しまね国際センター Shimane International Center

アカウントURL: <https://www.facebook.com/shimaneinternationalcenter/>



Instagram(インスタグラム) 名前:しまね国際センター

ユーザーネーム:shimane_international_center

アカウントURL: https://www.instagram.com/shimane_international_center/



(公財)しまね国際センター [しまね外国人支援センター・しまね国際研修館]

〒690-0011 島根県松江市東津田町369番地1

TEL: 0852-31-5056

FAX: 0852-31-5055

[ホームページ] <https://www.sic-info.org>

[E-mail] admin@sic-info.org



【西部支所】

〒697-0016 島根県浜田市野原町2433番地2

公立大学法人 島根県立大学 メディアセンター2階

TEL: 0855-28-7990

FAX: 0855-28-7991

[E-mail] hamada@sic-info.org

★編集後記

外国にルーツをもつ子どもの学習支援教室を始めました。回数を重ねていくことに参加している子どもたちはリラックスして勉強できるようになったようでした。SICにほんごコース「となりでにほんご」でも、10回の学習機会で学習者とパートナーが親しくなり、学習後も連絡を取っている方もいらっしゃいます。地域での結びつきが強くなるために1度きりで終わらない、継続的な関わりを大切にしていきたいです。㊦

まいるすとんず MILESTONES

Milestone(s) [まいるすとん(ず)]とは道標、または画期的なできごとという意味があります。センターの設立、活動が島根県の国際化の歩みの中で意義深いものとなり、この機関誌が一つの道標としてお役に立てればと名付けられました。